

## 静岡県支部だより

### 加藤明彦

静岡県支部だよりは約9年ぶりとなります。そこで、最近の静岡県における大災害時の透析対策の取り組みと学術活動について紹介させていただきます。

#### 1 静岡県における大災害時の透析対策

##### 1-1 これまでの活動

静岡県には本会の災害時情報ネットワークだけでなく、静岡県災害透析時ネットワーク（事務局：浜松医科大学附属病院血液浄化療法部）、各地区にある九つの情報ネットワークなど、複数のネットワークが存在していました。そのため、①大災害時はいろいろなネットワークまで連絡する必要がある、②これらの情報を集約し、行政まで伝える手段が決まっていない、③ライフライン確保に関する話し合いがない、などの課題がありました。

##### 1-2 災害時透析施設拠点施設の設定

2011年の東日本大震災の被害状況より、情報が集まってから行動するのでは遅い、ということが痛感され、従来のやり方を変換することとしました。静岡県腎不全研究会幹事会と静岡県庁が中心となり、災害時に集約的に透析をこなす「災害時透析拠点施設」をあらかじめ地域ごとに定める方針としました。

災害時透析拠点施設は、以下の要件を満たす施設としています。

- ① 発災後72時間以内の透析を集中的にこなす施設
- ② 建物が倒壊する可能性が少なく、透析設備の破

損の可能性が少ない施設で、津波の被害も受けにくく、非常時も電力供給が可能な施設（重油と水が供給されれば透析可能となる施設も含む）

- ③ 水や重油を供給してもらえるよう、あらかじめ行政に認識してもらうべき施設（したがって行政区単位に定めるのがよい）
- ④ 透析関係の医療者も地域の透析患者もその施設に集まり、集中的に維持透析医療を行う施設
- ⑤ 患者のアクセス可能な範囲に一つ以上の施設を選定する
- ⑥ 指定された災害透析拠点施設が使えなかった場合の次点を決めておく
- ⑦ 発災後72時間を過ぎたらクラッシュ症候群の患者も少なくなるので、災害拠点病院も発災後48時間以降から一般透析を受け入れる

さらに、透析拠点施設を第1種（発災直後にはクラッシュ症候群に対応し、48時間以降は維持透析にも対応する施設）と、第2種（発災翌日からの維持透析を中心に対応をする施設）に分け、第1種は静岡県が定めた災害拠点病院が担当することにしました。その後、保健所単位でキーパーソンとなる医師を決め、保健所と連携して第1種および第2種の災害時透析拠点施設を定めました（図1）。さらに、腎友会や医師会などの関連団体との連携もはかっています。

2017年12月時点で、第1種災害時透析拠点施設は20施設、第2種が33施設あり、これらの施設が中心となって地域行政との連携を図っています。また、年2回の静岡県腎不全研究会にあわせ、定期的な連絡協

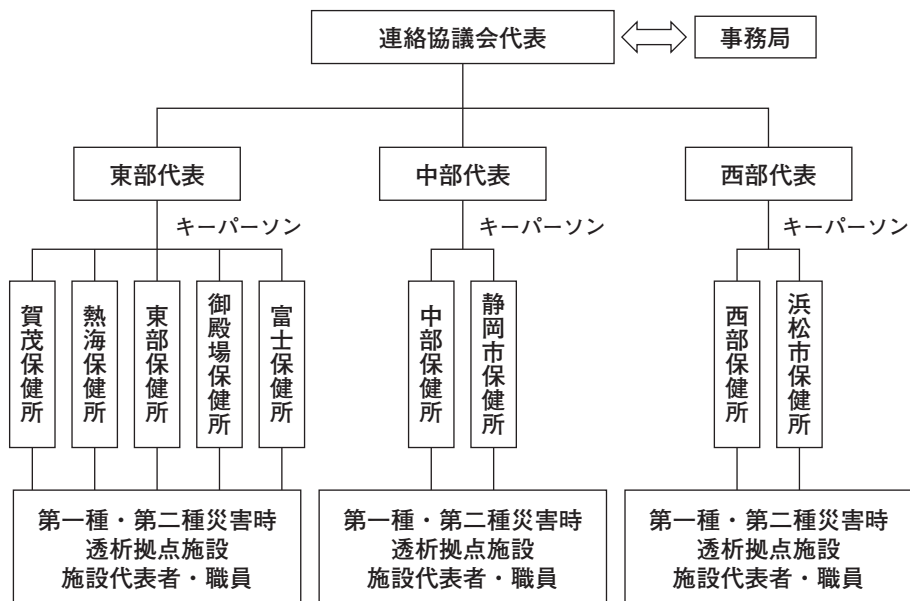


図1 静岡県災害時透析拠点施設の組織図

議会を開催しています。そのさいに、県庁健康福祉部および静岡県臨床工学技士会（災害時透析拠点施設に所属する臨床工学技士）に参加してもらっています。

2011年8月からは静岡県庁が中心となり、“ふじのくに防災情報共有システム「FUJISAN」”が開設されました。このシステムでは、各透析施設の被災情報をホームページから入力できるため、県内の情報が一元化できます。さらに、全透析施設が参加し、年1回の情報伝達訓練も実施されています。

2 学術活動

2-1 これまでの活動

静岡支部では菅野寛也先生が中心となり、実際に大災害を経験された医師をお呼びし、災害に関する学術講演会を2010年まで開催しました。詳細は25巻3号

に記載されています。

2-2 現在の活動

2011年以降は、静岡県腎不全研究会の学術集会で特別講演を年1回開催しています。最近の特別講演の概要を表1に示します。

3 今後の課題

3-1 災害時透析拠点施設の充実

直近の課題としては、災害時透析拠点施設を県全体へ広めることです。残念ながら、県東部および伊豆地区ではいまだ拠点施設が決まっていないため、静岡県庁と連携し整備を進めています。

さらに、活動レベルが地区ごとで差があるため、年2回の連絡協議会で各地区の取り組みを紹介し、均一

表1 静岡支部が開催した最近の特別講演

開催場所	開催日 (会場)	演者 (所属施設)	講演名
第44回静岡県腎不全研究会	2014.10.26 (もくせい会館)	竜崎崇和 (東京都済生会中央病院)	チームで行うCKD治療～地域連携から腹膜透析まで (PD患者の血圧管理を含めて)～
第46回静岡県腎不全研究会	2015.10.18 (もくせい会館)	黒尾 誠 (自治医科大学)	リン制限はいつからはじめるべきかー基礎医学からの提言ー
第48回静岡県腎不全研究会	2016.10.2 (もくせい会館)	守山敏樹 (大阪大学)	高齢者のCKD診療を考える
第50回静岡県腎不全研究会	2017.9.17 (もくせい会館)	加藤明彦 (浜松医科大学)	透析患者のフレイル予防
第51回静岡県腎不全研究会 (平成29年度HIV医療講習会の委託事業)	2018.3.11 (もくせい会館)	日ノ下文彦 (国立国際医療研究センター)	HIV感染症の基礎知識ならびにHIV感染透析患者の透析医療

化を図っています。

### 3-2 会員数を増やす

現在、静岡県には116の透析施設がありますが、会員数は31名です。多くの会員は創設時からであり、

新たな会員が増えていない問題があります。2017年6月より、私が静岡県支部長を拝命しました。今後は、「静岡県災害時透析拠点施設ネットワーク」の重要性を案内しつつ、本会への参加を呼びかけたいと思います。